

筑波大学 社会貢献プロジェクト
2015-16



University of Tsukuba

筑波大学社会貢献プロジェクト 2015－16

社会貢献プロジェクトとは

社会貢献プロジェクトは、筑波大学と社会との多様な形での連携活動を学内公募し、総合的に支援するもので、平成 16 年度にスタートしました。本プロジェクトは、特定の分野に限定することなく、地域との連携活動を自由に提案することを特徴としています。「科学振興」、「環境」、「文化・地域活性化」、「健康・スポーツ」、「医療・福祉」、「復興・再生支援」等、内容は多岐に亘っています。

平成 21 年度からは、教員だけでなく学生も申請できるようにし、柔軟かつ自由な発想に基づく課題も増えてきました。平成 27 年度は、72 件の申請のうち、28 件を採択課題としました。

〈筑波大学社会貢献・地域連携 HP〉
<http://scpj.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学社会貢献プロジェクト 2015-16

科学振興・教育

- 筑波大学発 ―おもしろふしぎ理科実験・工作隊―…………… 4
数理物質系 准教授 小 林 正 美
- 超小型人工衛星を用いた体験実習型科学教育による地域・社会貢献プロジェクト…………… 6
システム情報系 准教授 亀 田 敏 弘
- 学生によるサイエンスコミュニケーションの実践 ～筑波大学サイエンスコミュニケーショングループ SCOUT～… 7
生命環境系 助教 Matthew C. Wood
- 茨城県内の高校交流による数理モデルを用いた地域課題解決提案…………… 8
システム情報系 教授 吉 瀬 章 子
- 小中高校生への理科教育啓蒙活動…………… 9
数理物質系 准教授 後 藤 博 正

国 際

- 国際都市つくばの新しい国際化施策 一定住外国籍児童に対する「職育」プログラム…………… 10
人文社会系 准教授 明 石 純 一

環 境

- 身近な自然がぼくらの先生！ つくバグ 2015 学生による自然体験教室とサイエンスカフェ…………… 11
生命環境学群 生物学類 4 年 井戸川 直 人
- 「いもりの里」をモデル拠点とした谷津田・里山の復元・維持管理ネットワークの継続的发展 2015… 12
生命環境系 助教 丸 尾 文 昭

文化・地域活性化

- 高齢者コミュニティで作る産学・社会連携プロジェクト広報誌を介した地域づくり…………… 13
人間系 教授 原 田 悦 子
- 「夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊 2015 ―めざせ！つくばのレオナルド・ダ・ヴィンチー」の実施… 14
芸術系 教授 太 田 圭
- つくさか地域食育支援プロジェクト…………… 16
附属坂戸高校 副校長 石 井 克 佳

健康・医療・福祉

- 視覚障害パラリンピアン競技力向上とキャリア支援に向けた鍼灸マッサージによる支援…………… 17
人間系 教授 宮 本 俊 和
- 「宇宙」を用いて地域の人々に笑顔を ～つくば市の病院、学校を中心に～ …………… 18
人間総合科学研究科 看護科学専攻 高 村 有 加
- 地域高齢者を対象とした健康教室の開催…………… 19
附属視覚特別支援学校 教諭 工 藤 康 弘
- 高齢者運動支援リーダーによる健康づくりネットワークの醸成と普及体制の構築 ～特に男性高齢者の健康づくり推進および異世代間交流強化の観点から～… 20
体育系 准教授 大 藏 倫 博
- 科学的根拠に基づく母乳育児支援専門職の養成…………… 21
医学医療系 講師 安 部 加 奈 子
- 地元在住の運動指導ボランティアの自立を支援する社会貢献プロジェクト…………… 22
体育系 教授 田 中 喜 代 次
- 成長発育期（小・中学生）に発生する運動器障害に対する「健康手帳」用いた運動器検診とトレーナーによる障害予防活動… 23
医学医療系 整形外科・講師 鎌 田 浩 史
- 茨城県内の救急隊員に対する小児・周産期医療教育…………… 24
医学医療系 講師 宮 園 弥 生
- 医療職および一般市民に対する新国際標準蘇生（ガイドライン 2010）教育体制強化の支援…………… 25
医学医療系 准教授 高 橋 伸 二

復興・再生支援

- 時間効率・空間効率を高めて学校体育を支援する「2分間 SPARTS 体操」…………… 26
体育系 教授 征 矢 英 昭
- つくば市と北茨城市における健康づくり運動による交流活動の支援…………… 28
体育系 教授 長谷川 聖 修
- 復興作業およびスポーツ振興を通じた被災地での支援活動…………… 29
体育系 助教 奈 良 隆 章
- 社会貢献プロジェクト「東北3県柔道指導キャラバン」…………… 30
体育系 准教授 増 地 克 之
- 私たちの故郷を描こう 一貼り絵で表現する故郷の文化と誇りー
（東日本大震災で被災した地域の子供たちの心のケアと郷土愛や誇りを取り戻すための支援）…………… 32
附属聴覚特別支援学校 主幹教諭 橋 本 時 浩

筑波大学発一もしろふしぎ理科実験・工作隊一

【活動地域：茨城県全域】

数理物質系 准教授 小林 正美

1 事業の概要

月数回、小・中・高校生を対象とする理科の実験・工作の演示・指導を行うことで、児童・生徒の理科に対する能力を開拓することを目的とする。加えて、生涯学習の観点から、一般の方を対象としたテーマも扱う。地域の自治体等と連携することで、できるだけ広範な社会貢献を目指す。

2 内容（実施内容・成果・地方自治体との連携等）

茨城県と千葉県を中心として、主に小・中・高校生を対象とした出前科学レクチャーを多数行うことが出来た。それに加え、一般の方を対象とする企画（例えば、つくば科学フェスティバル、うしくみらいエコフェスティバル、我孫子市市民講座など）も、地方自治体との連携のもと、有意義に行うことが出来た。

【主な自治体等との連携】

茨城県 つくば市教育委員会
 大子町教育委員会
 坂東市教育委員会
 県北生涯学習センター
 水戸生涯学習センター
 県南生涯学習センター
 県西生涯学習センター
 レイクエコー
 潮来市立図書館
 龍ヶ崎市立中央図書館
 神栖市中央公民館
 千葉県 我孫子市教育委員会
 我孫子市アビスタ
 神奈川県 ガールスカウト湘南



3 今後の展望

より広範な地域・年齢層に対して、生涯学習の観点から社会貢献していきたい。

平成27年度社会貢献プロジェクト

筑波大学発 -おもしろふしぎ理科実験・工作隊-

小林 正美（物質工学域・准教授） 重川 秀実（物理工学域・教授） 中村 潤児（物質工学域・教授） 木島 正志（物質工学域・准教授）

背景と目的

月数回、小・中・高校生を対象とする理科の実験・工作の演示・指導を行うことで、児童・生徒の理科に対する能力を開拓することを目的とする。加えて、生涯学習の観点から、一般の方を対象としたテーマも扱う。地域の自治体等と連携することで、できるだけ広範な社会貢献を目指す。

成果

茨城県と千葉県を中心として、主に小・中・高校生を対象とした出前科学レクチャーを多数行うことが出来た。それに加え、一般の方を対象とする企画（例：つくば科学フェスティバル、うしくみらいエコフェスティバル、我孫子市民講座など）も、地方自治体との連携のもと、有意義に行うことが出来た。

出前講義写真

平成27年度 出前講義一覧

4/2(木)一日体験
4/18(土)科学技術週間
5/13(水) 附属高校
5/17(日)植物の日
6/13(土)坂東市教育委員会一日体験
6/26(金)潮来市立大生原小学校
6/27(土)基崎第二小学校
7/9(木)附属駒場高校
7/12(日)平塚市青少年会館
7/23(木)つくば市吉沼小学校
7/24(金)霞ヶ浦学校
7/31(金)鹿島市まちづくり市民センター
8/2(日)大子町教育委員会
8/5(水)牛久栄進高等学校
8/6(木)リクエー一日体験
8/12(水)つくばみらい市伊奈公民館
8/17(月)龍ヶ崎市立中央公民館
8/21(金)新治児童館
8/23(日)キッズマイスター
8/24(月)応用理工サマースクール
8/26(水)美浦村立木原城山児童館
9/14(月)～16(水)米軍子弟高大連携
10/9(金)ブラジル人学校
10/10(土)南守谷児童センター
10/13(火)水戸市立河和田小学校
10/15(木)つくば市立栄小学校
10/18(日)牛久エコフスタ
10/23(金)筑西市竹島小学校
10/28(水)大阪市立東高校
10/31(土)、11/1(日)つくば科学フェスティバル
11/6(金)鉾田市立旭北小学校
11/7(土)学園祭 筑波塾
11/13(金)水戸一高校
11/15(日)神栖市中央公民館
11/18(水)古河第六小学校
11/28(土)坂東市教育委員会
12/2(水)古河市下辺見小学校
12/13(日)いばらきこども大学
12/25(金)水戸氏リリーの森幼稚園
1/26(火)友部特別支援学校
2/7(日)城ノ内小学校こども育成会
2/17(水)我孫子市生涯学習講座
2/21(日)牛久市城中子ども会
2/28(日)潮来市立図書館
3/15(火)千葉黎明高等学校
3/16(水)日本化学会



今後の展望

今後も、より広範な地域・年齢層に対して、生涯学習の観点から社会貢献していきたい。

超小型人工衛星を用いた体験実習型科学教育による 地域・社会貢献プロジェクト

【活動地域：茨城県つくば市】

システム情報系 准教授 亀田 敏弘

1 事業の概要

筑波大学が現在開発中の超小型人工衛星 ITF-2 (2016 年度に ISS「きぼう」から放出予定) を題材に、座学では得難い総理工学分野の体験実習型教育を行い、中学・高校生に対する科学振興を行う。

地域・社会貢献を通して科学の街つくばの拠点である本学の魅力を伝えると同時に、本学学生のサイエンスコミュニケーション能力の涵養も視野に入れる。

2 事業成果の概要

採択後、内諾の得られていた茗溪学園高校との打ち合わせを開始した。(2015 年 5 月 15 日、出席者：田代淳一校長、黒澤紀久副校長、中村泰輔 教務部副部长 理科教諭、亀田敏弘)

本事業の実施にあたり、社会貢献する側とされる側という考え方ではなく、事業を通して中学・高校生を育てる機会であることはもちろん、大学生のサイエンスコミュニケーション能力を高める機会としても活用を目指し、双方にとって Benefit のある事業とする旨の合意に至った。双方向型の社会貢献事業モデルの提案例として、他分野にも応用可能な成果と考えられる。

7/13 に第 2 回の打ち合わせを中村泰輔教務部副部长(茗溪学園 理科教諭)と筑波大学にて実施した。

8/26 (水) に体験実習型科学教育を実施した。詳細は次のとおりである。

日 程	2015 年 8 月 26 日 (水)
時 間	9:00 集合 - 17:00 解散
場 所	筑波大学 総合研究棟 B 棟 1228 室
講 師	筑波大学衛星プロジェクト学生 小山 (B2)、保田 (B3)、渡辺 (B3)、亀田 (計 4 名)
参加者	茗溪学園 中 3:4 名、高 1:6 名、高 2:1 名、 中村泰輔教諭 (計 12 名)
実 施 テーマ	衛星信号受信と速度計測、太陽電池特性試験、 部材共振特性試験

中高生は、様々なデバイスのデータの実測は初めてということで、興味深く各テーマに取り組んでいた。



本学学生 (保田) による解説と説明



太陽電池特性試験実施中の様子 (解説：渡辺)

3 地方自治体との連携

公立学校にも参加の打診を行ったが、回答が得られなかった。引き続き検討を進めたい。

4 今後の展望

工学色の強い内容、例えば Arduino などのマイコンボードの活用といったテーマは高校で実施することがなかなか難しいので、大学との連携で実施できれば大変興味深いとの意見を頂戴し、今後盛り込んでいきたいと考える。

学生によるサイエンスコミュニケーションの実践 ～筑波大学サイエンスコミュニケーショングループ SCOUT～

【活動地域：つくば市等】

生命環境系 助教

Matthew C. Wood

1 事業の概要

筑波大学サイエンスコミュニケーショングループ・スカウト（SCOUT：Science Communication of the University of Tsukuba）として平成21年4月に活動を開始して以来学生メンバーは30名を超えている。

スカウトは、地域に対する社会貢献としての科学あそびラボを多数開催しており、学生たちのサイエンスコミュニケーション実践の場としての意味も非常に大きい。ここ数年サイエンスコミュニケーションの重要性が叫ばれるが、学生が実際に経験する場は少ない。その意味で子どもたちに対して科学を伝える「科学あそびラボ」は学生にとって非常によいトレーニングとなっている。

2 事業成果の概要

科学技術週間に行われる筑波大学キッズユニバーシティおよび国際植物の日に、「科学あそびラボ」として、小学生を対象にした科学実験を行った。また、筑波大学と連携している大子町や南相馬市の中学校の来学時に、科学実験を行った。全イベントでの参加者数は400名を超える。

また、NHK総合の「あさイチ」に筑波大学SCOUTとして出演し、「1分でできるアイス！」実験を行った。

開催日時	内 容	参加人数
筑波大学キッズユニバーシティ 2015. 4.18	黒の正体をあばけ	200名程度
国際植物の日 2015. 5.17	葉脈しおり作成	150名程度
大子町中学生の筑波大学訪問 2015. 7.27	アイス作り実験	40名程度
南相馬市小学生の筑波大学訪問 2015. 9.27	アイス作り実験	40名程度

3 地方自治体との連携

大子町、南相馬市と筑波大学の連携事業に積極的にかかわっている。またキッズユニバーシティには、つくば市内の小学生が多く訪れており、筑波大の学生との交流も深めている。



キッズユニバーシティの様子

4 今後の展望

H26年度のテレビ出演（「所さんの目がテン」）がきっかけとなり、8月にNHK総合「あさイチ」に、筑波大学SCOUTとして出演し、科学実験を行った。視聴率の高い番組であったことから、SCOUTの認知度はさらに高まった。

今後はつくば市内での活動も多くしていく予定である。



収録終了後のスタジオにて

小中高校生への理科教育啓蒙活動

【活動地域：茨城県つくば市】

数理物質科学研究科物性・分子工学専攻 数理物質系 准教授 後藤 博正

1 事業の概要

液晶の作製、電子工作、静電気の実験などの基礎実験およびデモンストレーション実験を通し、小中高生への理科系啓蒙活動を行った。特に発展性の実験としてクロマトグラフィーの実験や、ラジオ作成指導を行った。テルミンの作動原理、モアレ干渉縞の説明も行った。さらに高校時から求められる国際化に対応し、「理科研究発表ワークショップ、高校生英語口頭発表の部（IWP2016 高校生の部）」を設け、これを行った。SSHに指定された県内の各高校をはじめ、参加校は英語での口頭発表を行った。各発表後、ヨーロッパ特許庁 Dr. Rafael Kiebooms がそれぞれ英語で感想とアドバイスを述べた。その後、茨城県教育委員会の見守る中、クラシック音楽を背景に盛大な表彰式が行われ、Dr Kiebooms より優秀発表者にトロフィーと表彰状が授与された。

2 効果

本社会貢献プロジェクトでは、小学生から高校生まで、その学年に合わせた理科教育啓蒙活動を活発に行った。指導補助にあたった筑波大学類生および大学院生は自身の科学を志した頃の初心に戻ったようであり、子供たちと接する優しさを身につけた。研究発表会では大学進学に向けた受験勉強を続けながら、理科室で研究を行い、英語発表の練習を重ねる高校生の様子を高校顧問の先生方より伺った。以上からも高校生英語口頭発表の部を、今後より充実させ、科学を志す高校生を応援していくこととした。Rafael Kiebooms 賞は竜ヶ崎第一高校に授与された。

3 地方自治体との連携

本活動を通してつくば市教育委員会や県内の高校の理科研究関連部の顧問の先生方、そして茨城県教育委員会と理科教育活動の連携を行うことができた。今後、この絆をますます強め、大学からの小中高生への教育活動を継続して行きたい。



理科実験および英語口頭発表会の様子

国際都市つくばの新しい国際化施策 一定住外国籍児童に対する「職育」プログラムー

【活動地域：茨城県つくば市ほか】

人文社会系 准教授 明石 純一

1 事業の概要

本事業は、つくば市に居住する外国籍住民、おもに青少年や児童に対する職業教育（以下、職育）支援を実施するものである。彼（女）らに対して進学・進路指導やキャリアアッププログラムを提供するとともに、同事業の趣旨と目的を共有するグループ間のネットワーク化を積極的に進め、事業の効果的運営を試みている。2015年度は、大学（教員・学生）、自治体（茨城県、つくば市、常総市）、公立学校、大使館、NPO、企業、支援対象者との協力体制をさらに強化し、「職育」活動を広範囲に展開した。事業の企画と運営にあたっては、財団法人日伯経済文化協会（ANBEC）やNPO法人国際社会貢献センター（ABIC）とも連携をはかり、その専門的リソースを、外国籍児童に対する支援に活かしている。

2 事業成果の概要

第一に、進学支援を実施した（表の左欄①）。第二に、「筑波大学おもしろふしぎ理科実験・工作隊」とのコラボレーション企画を外国人児童向けに開催した（②）。第三に、キザニア東京における就労体験実習の準備を行った（③）。第四に、外国人学校卒業生への進路相談会を行った（④）。第五に、職業レディネステストを活用したキャリア支援を行った（⑤）。客観的な指標を伴う上記の職業アセスメントツールを外国籍児童の支援に活用するもので、本事業の成果の応用といえる。第六に、外国籍住民の支援に関わる専門家を招聘し、フォーラムを開催した。本学からも同分野に関心がある教員や大学院生が複数参加した（⑥）。第七に、ワークショップ（教育とキャリアによる夢の実現に向けて）を開催した（⑦／写真）。同イベントにはつくば市や茨城県内外から関係者を招き、筑波大学発の本事業を通じて得られた知見や課題の普及に努めている。本事業を盤石にするために様々なステークホルダーから共感を引き出し、その結果として協力を取り付ける機会として位置づけている。上記七つの活動は、多くの外国籍児童の「学ぶ動機」と「働く意欲（想像力）」を長期的に高めることを目的としたもので

あり、地域の教育関係者から好評を得ている。また結果的に、本学学生の異文化理解や国際交流の実践経験にもつながった。

ワークショップの開催風景(筑波大学共同利用棟 A)



平成 27 年度の活動内容

	活動項目	回 数	延べ参加人数
①	進学支援（旧日本語・日本社会文化講座）	36	120
②	コラボ出前講義	1	28
③	キザニア授業・体験	6	162
④	外国人学校卒業生への進路相談会	6	16
⑤	職業レディネステスト	9	56
⑥	有識者フォーラム	1	20
⑦	ワークショップ	1	70
⑧	連絡協議会	4	30

3 地方自治体との連携

イベントへの参加依頼や情報共有・意見交換を中心に、県内の教育機関関係者（公立学校の国際担当教員ほか）や国際課等との協力を多面的に進めている。

4 今後の展望

平成 22 年度より採択されている本事業・活動への参加者数は、平成 27 年 3 月末現在に至るまでのべ 2,100 名を超える。こうした実績を踏まえ、地方自治体との連携をより強化、公式化していくことが望まれる。上を念頭に置きつつ、大学発地域実践型の国際社会貢献モデルを示すことを引き続き目指していきたい。

身近な自然がぼくらの先生！ つくバグ 2015 学生による自然体験教室とサイエンスカフェ

【活動地域：茨城県つくば市】

生命環境学群 生物学類 4年 井戸川直人

1 事業の概要

環境問題が国際的な重要課題とされる昨今、次世代を対象とした環境教育の必要性は極めて高い。しかし、現代の子供たちが環境について体験的に学ぶ機会は乏しい。また、筑波大学は緑豊かなキャンパスを有し、環境分野の講義や研究が実施されているが、学生の身近な自然への関心は高くない。本課題では、生物学を専攻する学生が、児童や学生に向けた自然体験教室を開催し、地域の環境について楽しく学ぶ場を提供した。

2 事業成果の概要、地方自治体との連携

地域社会に環境教育の場を提供するため、平成 27 年度は以下の活動を行なった。

- ① 7月5日 : 夏バグ 昆虫のスケッチ教室
- ② 11月7-8日：秋バグ（学園祭）企画展示
企画名「ザ・むし・ワールド」

夏バグでは、地域の子供たちを対象とした昆虫の観察教室を行なった。参加者の募集に際しては、地域の公民館や図書館にポスターの掲示をお願いした。当初は、学生の指導の下で、大学構内において昆虫を採集し、自分で捕まえた昆虫をスケッチしてもらう予定だったが、当日の天候不順のため、スタッフがあらかじめ用意した昆虫を観察する形式となった。つくば市の内外から、小中学生 15 名が参加した。

学生スタッフの他に、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の上原拓也氏を講師にお招きした。専門的な知識に基づいた指導は、参加者や保護者から高い評価を得られた。

秋バグでは、昆虫の標本や生体の展示を通して、市井の人々や学生に昆虫の興味深い生き様を伝えた。2 日間の日程で約 1,500 名の来場者を迎え、学園祭実行委員会の主催する「雙峰祭グランプリ」では敢闘賞を受賞した。



写真 1 夏バグにおける講義の様相



写真 2 秋バグの展示企画の様子

3 今後の展望

つくバグの活動は6年目に突入し、企画運営のノウハウの確立や、設立メンバーから下級生への引継ぎもある程度達成されている。地域社会に貢献する団体であり続けるために、メンバー内で活発にアイデアを出し合い、新規の企画を打ち出していきたい。今後の活動方針として、創設の理念を保ち、これまでの活動を継続するとともに、新たな発想によって活動の範囲を広げたいと考えている。

「いもりの里」をモデル拠点とした谷津田・里山の復元・維持管理ネットワークの継続的发展 2015

【活動地域：茨城県取手市】

生命環境系 助教 丸尾 文昭

1 事業の概要

「いもりの里」では、関東平野の典型的な荒廃した谷津田・里山（取手市の耕作放棄地）を舞台に、地域住民と行政、学術サイドが協働して農村・都市一体型の維持管理ネットワークの構築に成功し、イモリ（絶滅が心配される水生動物）も棲める上質の自然環境を復元しながら、生命環境教育・農業体験・地域産業振興活動などの総合プログラムを実践している。本事業では「いもりの里」（地域の宝／サンクチュアリ）をモデル拠点として活用・維持しながら、周辺地域への拡充計画策定や周辺小学校での科学体験学習を支援する。

2 事業成果の概要

これまでの活動を通じ、地域住民サイドからは「いもりの里」の継続活用と維持継承を望む声が、行政サイドからは類似の事業展開を探る声が強いことが分かった。そこで初期整備を終えた「いもりの里」をモデル拠点として本格的に活用・維持しながら、科学学習支援や周辺地域への拡充計画策定支援・提言を継続的に実践している。

田植え・稲刈り・収穫祭等の様々なイベントや生命環境関連の様々な総合学習プログラムは、いもりの里協議会が中心となって、行政、教育委員会・学校、地域住民の協力も得ながら、年間12回程度開催している。

表・平成27年度 いもりの里年間行事

開催日	内容	参加人数
4月26日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 草もち作り、春の花・いもり観察	38名
5月10日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 どろんこ田んぼ運動会、ザリガニ釣り	104名
5月31日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 田植え、田んぼの生き物観察	113名
6月21日	取手いもりの里 生き物観察会 土壌生物観察、いもり観察	62名
7月20日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 草木染め	51名
8月9日	取手いもりの里 星空の下の科学教室 講演会、灯火採集	43名
9月13日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 稲刈り、いもり観察	79名
10月18日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 収穫祭（主催：貝塚・上高井地区農村環境活用推進協議会）	74名
11月15日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 葉っぱスタンプ オリジナルバックづくり	36名
12月20日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 クリスマスリースづくり	65名
1月31日	取手いもりの里 谷津田・里山体験 デイキャンプ	31名
2月28日	取手いもりの里 生き物観察会 鳥の観察	34名
3月27日	イモリの学習会（筑波大学） （再生の不思議、イモリの卵や幼生観察、イモリ幼生の飼育法）	64名



稲刈り（9/13）コナギも生えた生物相豊かな田んぼ

3 地方自治体との連携

取手市役所まちづくり振興部を中心に「いもりの里」の候補地選定時以来9年にわたり支援をいただいている。取手市から地元（いもりの里協議会）への公募補助金が継続的に採択されているほか、イベント運営スタッフへの市役所職員の方々の参加、有害外来生物（アライグマ）の駆除など、地域住民との3者間で連携した円滑な協力体制が確立している。

4 今後の展望

周辺小学校での科学体験学習（イモリ飼育体験ほか）を取手市と計画調整し、平成25年度に、いもりの里近隣の高井小学校で試行した。並行して、家庭での飼育体験プログラムも提供している。今後は、イモリネットワーク・ジュニアとして対象校や対象家庭を拡充し、「いもりの里」を生命環境教育の拠点としても発展させていく。また、世界で唯一のアカハライモリ・ストックセンターとしての役割（Nature Protocols 6:593-599, 600-608, 2011 ほか）に記載）も益々重要になってくると考えられ、イモリ野外生態観察場を区画化して科学的な追跡調査を容易に行えるように改修し、繁殖環境の整備にも力を入れている。

5 その他

- 1) 新聞掲載（日本農業新聞（9/25））
- 2) ポートフォリオはイモリネットワーク（Japan Newt Research Community）のWebページに随時掲載

<http://imori-net.org/>

高齢者コミュニティで作る産学・社会連携プロジェクト広報誌を介した地域づくり

【活動地域：茨城県つくば市】

人間系 教授 原田 悦子

1 事業の概要

みんラボ（みんなの使いやすさラボ）は、地域在住の高齢者 200 名余りが社会貢献として登録し、学内研究グループと共同して、一般企業他からの「使いやすさ検証活動」や使いやすさ研究を実施している。こうした活動の中で、登録高齢者会員から、みんラボの活動を広く地域に広げたいという要望が生まれ、広報誌づくりの計画が立ち上がった。高齢者が中心となり、みんラボでの活動や「生活の中の使いやすさ」に関わる地域の出来事を広報誌「四季報」にまとめ、発信した。

2 事業成果の概要

編集会議はみんラボ高齢者会員 12 名程度が編集委員となり、みんラボ事務局がサポートしながら、月に 1～2 回みんラボで定期的に行われた。編集会議では、広報誌に掲載する記事の決定、各記事の分担、レイアウト、校正などが行われ、みんラボ事務局・筑波大学学生は議事録の作成、記事の情報提供などを行った。原稿を作成するにあたり、編集委員はみんラボに関わる研究者・企業に記事を依頼したり、みんラボの様々な活動取材したりした。出来上がった原稿は、編集会議にかけられた後、編集メンバーが印刷会社に依頼して、「四季報」を作成した。



編集会議の様子

平成 27 年度は 4 回「四季報」を発行した。この広報誌は、配布された各登録会員高齢者は、みんラボで

行われている活動を地域在住高齢者や自身が参加している市民団体等にみんラボの活動を紹介するツールとして役立てている。またみんラボ事務局においても地域高齢者や学生・研究者、大学本部、一般企業等に活動を紹介するツールとして役に立っており、紹介された側からもわかりやすい広報誌と評価されている。

編集委員メンバーは、「四季報」の作成に積極的に楽しく参加している様子であり、毎号掲載される「編集後記」からは、編集活動を通して、みんラボでの活動をより楽しいものにしようという意欲も伺えた。



「四季報」イメージ

3 地方自治体との連携

これらの四季報はみんラボ会員宅に郵送で送り、つくば市内の市役所・交流センター・社会福祉協議会・病院、守谷市と牛久市の公共施設等に編集委員メンバー・みんラボ事務局が依頼して窓口に置かせていただいた。

「夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊 2015 ーめざせ！つくばのレオナルド・ダ・ヴィンチー」の実施

【活動地域：茨城県つくば市】

芸術系 教授 太田 圭

1 事業の概要

平成 20 年度に同内容のプロジェクトを開催してから、平成 27 年度で 8 回目を数えた。参加者は年々増加し、筑波大学の芸術が実施する夏休みのイベントとして定着しつつある。実施の背景には、小中学校で学ぶ、「図画工作」や「美術」の授業時間数の減少化によって、長い時間をかけてものを見て描くことや、実物の作品を鑑賞するといった、表現や創造性、感受性などを育む経験が乏しくなっているという危機感がある。それらに対して、筑波大学で芸術に関わる人的財産（教員と学生）と芸術資産（学内の展示作品、学生アトリエ）を活用する本プロジェクトを通し、創造的で、豊かで自由な心を持つ人間形成に資することを目的とした。

2 内容（実施内容・成果・地方自治体との連携等）

プログラムは「制作と鑑賞」を柱として、3つの催し物で構成されている。

【アート・デイキャンプ】体芸エリア 5C 棟の大石膏室を中心会場として、大型のダビデやニケの石膏像、鳥の剥製や鉢植え植物などを「観察」して写生した。（7月 18 日、19 日）

【アートたんけん隊】本学内に展示されている芸術作品の鑑賞と、学生のアトリエを見学するプログラムで、大学院生が用意した「鑑賞ツール」を用いて楽しく鑑賞した。（7月 18 日、19 日）

【夏休みアート・デイキャンプ展】「アート・デイキャンプ」で制作した作品による展覧会で、事前に審査会を開催し、優秀作品には賞を授与した。展覧会会場は茨城県つくば美術館で、応募者全員の作品 330 点を展示した。本プロジェクトは、従来、（公財）つくば文化振興財団、つくば市と連携して実施しており、平成 25 年度からは「つくば市長賞」が設けられた。また平成 27 年度には「筑波大学学長賞」が新設された。（8月 25 日～ 30 日）

3 今後の展望

夏休みには、学校外のイベントや学習塾などがあるにもかかわらず、2日間で 400 名を超える参加者がいたことは、科学のまち、つくば市でも「情操教育」への期待があることを示していると言える。

8年の間に、本学の芸術専門学群受験生や入学者を輩出するなど、本学の存在のアピールにもつながっていると思われる。

今後は、つくば市居住の外国人研究者の子女や、障がいのある子どもたちの参加希望があった場合には、受け入れにも柔軟に対応して行きたい。

来年は 10 回目を迎えるので、美術館での展覧会期間中にワークショップなど何らかの関連イベントを行うことを考えたい。



夏休み アート・ デイキャンプ 2015

日本有数の、大きな石膏像のある部屋で、ミケランジェロのダビデ像やニケ像、静物のモチーフを楽しく描こう！思い思いの画材を使って自由に描こう！個人別のワンポイント・アドバイスをありますよ。

対象 つくば市および近隣に在住/在学の小学生・中学生・高校生
※原則として小学生以下は保護者同伴で参加してください。なお不都合の場合は事前にご連絡ください。

参加費 無料

定員 各プログラム140人まで(先着順)
7/18(土)または7/19(日)の希望日をご指定ください。

指導 筑波大学芸術系教員
筑波大学大学院生・学群生

作品サイズ 小・中学生: 四つ切画用紙サイズ
高校生: 木炭紙サイズ

持ち物 画板・画材(クレヨン・パステル・色鉛筆・水彩絵具・木炭・鉛筆など)
※画用紙はこちらでご用意します。
昼食(全日参加の場合)
タオル・飲み物

制作に関する問い合わせ 下記の筑波大学芸術系(太田)までご連絡ください。

アート たんけん隊

アート・デイキャンプで絵を描いた後に、大学内に展示されているアート作品の秘密を探してみませんか？大学院生が(鑑賞)探検ツールを使いながらみなさんをナビゲートしていきます。作品を見ていろいろと考え、アートに隠された楽しさや驚き、おもしろさなど、たくさん秘密を発見してみましょう。

対象 小学生以上 ※保護者の参加もOKです。

参加費 無料

定員 各日20人まで(先着順)
7/18(土)または7/19(日)の希望日をご指定ください。

日程 夏休みアート・
デイキャンプ2015
& アートたんけん隊
7月18日(土), 19日(日)

場所 筑波大学
体育・芸術エリア
5C棟 大石膏室他

*アート・デイキャンプ、アートたんけん隊ともにこちらに集合してください。詳しくは裏面地図をご参照ください。

参加申込方法 下記の申込先(公財)つくば文化振興財団に電話で申し込むか、直接つくばカピオ内管理事務室までお越しください。

受付期間 2015.6.27(金) 9:00 から
2015.7.12(土) 17:00 まで
*受付時間 月曜のぞく 9:00 - 17:00

プログラム	午前	午後
アート・デイキャンプ 7月18日(土)	9:00 受付開始 9:30 - 12:00	
19(日)		12:30 受付開始 12:50 - 15:20
アートたんけん隊	15:20 集合 15:30 - 16:30	

お問い合わせ **参加申込** (公財)つくば文化振興財団
作品提出先 つくばカピオ内 担当: 岡野
tel: 029 - 856 - 7007
fax: 029 - 856 - 7009
受付時間 9:00 - 17:00 (月曜休館)

プログラム内容 / 制作 / 駐車場 筑波大学芸術系
担当: 太田
tel / fax: 029 - 853 - 6374
mobile 090 - 4603 - 1523 (当日)
E-mail: ohta@geijutsu.tsukuba.ac.jp

アートたんけん隊内容 筑波大学芸術系
担当: 石崎
tel / fax: 029 - 853 - 2707
E-mail: ishizaki@geijutsu.tsukuba.ac.jp

つくさか地域食育支援プロジェクト

【活動地域：埼玉県坂戸市】

附属坂戸高校 副校長 石井 克佳

1 事業の概要

現在多くの小中学校では食育の基本となる農業体験学習が行われているが、専門性のある教員が常駐しない環境下では、その成果を十分に得られないという声が多く聞かれる。そこで本プロジェクトでは、本校のこれまでの農業教育活動の実績を活かし、近隣の小中学校への農業体験学習の支援や、本校をフィールドとした農業体験授業の実施、また各校のニーズに合わせた給食食材の提供などを行い、地域の小中学校における様々な食育機会の充実に貢献すべく活動している。



本校生による大根栽培学習の指導（南小学校2年生）

2 事業成果の概要

2.1 小中学校での活動

- (1) 中学校菜園での野菜栽培へ指導助言
4月～11月 於：市立大家小学校菜園
- (2) 小学校2年生 夏野菜栽培学習への指導助言
4月～7月 於：市立南小学校菜園
- (3) 小学校5年生 野菜栽培学習への指導助言
5月～12月 於：市立坂戸小学校菜園
- (4) 小学校2年生 ミニトマト鉢栽培への指導助言
5月～7月 於：市立坂戸小学校菜園
- (5) 小学校2年生 ダイコン栽培学習への指導助言
9月～12月 於：市立南小学校菜園
- (6) 小学校3年生への収穫物調整体験学習の実施
6月17日 於：市立坂戸小学校3年生各教室

2.2 本校での活動

- (1) 小学校5年生 担当教員への栽培学習指導
4月23日 坂戸小学校5年生担任4名
- (2) 小学校2年生 農場探索学習の実施
6月17日 南小学校2年生 75名
- (3) 小学生の食育体験学習会の指導（坂戸市主催）
8月5日 坂戸市内の小学生 25名
- (4) 小学校1年生農場探索学習の実施
9月25日 南小学校1年生 70名
- (5) 小学校2年生 収穫体験学習の実施
11月4日 南小学校2年生 75名
- (6) 特別支援学校との秋冬野菜栽培学習の実施
9月～12月 市内3校の特別支援クラス 28名

2.3 給食食材の提供

支援先各校の担当教員と連携により、ニーズに合わせた品種選定と出荷時期の調整を行って、本校農場で生産した野菜を給食食材として提供した。

期 間：7月～12月

対 象：坂戸中学校・南小学校・坂戸小学校

品 目：トウモロコシ・ハクサイ・ダイコン

キャベツ・ブロッコリー・カブ 他

3 地方自治体との連携

坂戸市教育委員会と随時連携を図りながらプロジェクトを進めている。H28年度は小規模ながら市の予算化が初めて実現する見通しとなり、小中学校児童生徒の移動費用や学校菜園の維持管理などに運用される予定である。また、今後は坂戸市を介して、本プロジェクトと連動する形で、市内の女子栄養大学とも食育に関する連携を行うべく準備を進めている。

視覚障害パラリンピアン競技力向上と キャリア支援に向けた鍼灸マッサージによる支援

【活動地域：東京都文京区】

人間系 教授 宮本 俊和

1 事業の概要

視覚障害スポーツ選手の競技力向上に向けた鍼灸マッサージを行うスタッフを養成するとともに、視覚障害スポーツの普及を目指して以下を実施する。

- 1) 昨年度の本プロジェクトで作成したテキストを教材として、視覚障害スポーツ選手のコンディショニングサポートに向けた鍼灸マッサージの実技講習会を開催する。
- 2) 本施設および附属視覚特別支援学校を卒業したパラリンピアンを招き、理療科教員養成施設教員・学生、スポーツ医学専攻学生、視覚特別支援学校生徒を対象とした講演会を行う。
- 3) 視覚障害柔道選手などの強化合宿に帯同して、鍼灸マッサージのコンディショニングサポートを行う。
- 4) 地方の盲学校で、スポーツ分野の鍼灸マッサージの出前授業を行う。

2 事業成果の概要

1) 鍼灸マッサージの実技講習会

作成したテキストをもとに障害者スポーツに関わる鍼灸師を対象にスポーツ鍼灸の実技講習を行った。

講座名	回数	延べ人数
スポーツ鍼灸マッサージ講習会	5回	110人

2) パラリンピアンによる特別講演会

本学視覚特別支援学校卒業生でパラリンピアンズ協会会長の河合純一氏による「視覚障がい者とパラリンピック～その現状と課題 2020 パラリンピックに向けて～」の特別講演会を開催した。本施設教員・学生、都内近郊の盲学校教員・生徒、パラリンピック関係者など約 50 名が聴講した。

3) 視覚障害スポーツ選手に対する鍼マッサージによるコンディショニングサポート

視覚障害者柔道および盲人マラソンの強化合宿で鍼灸マッサージによるコンディショニングサポートを行った。



鍼灸マッサージ実技講習会

4) 盲学校での出前授業

山形県立山形盲学校で教員・生徒 22 名を対象に作成したテキストをもとに「スポーツ分野の鍼灸マッサージ」の授業を行った。その他、出前授業以外に、秋田県立秋田盲学校、静岡県立静岡盲学校、山梨県立山梨盲学校、福岡県立福岡盲学校などでスポーツ鍼灸に関する授業を行った。

3 地方自治体との連携

筑波大学東京キャンパス文京校舎を中心に講習会や講演会を行った。スポーツ選手のコンディショニングサポートは、柔道は講道館、盲人マラソンは千葉県富津市などの合宿地で行った。盲学校での授業は、秋田県、山形県、山梨県、静岡県、福岡県などで行った。

4 今後の展望

これまで、数年にわたり筑波大学社会貢献プロジェクトの採択を受けて、視覚障害スポーツと鍼灸マッサージに関する社会貢献を続けてきた。4年前の開始当初より、視覚障害スポーツの関心は深まり、鍼灸マッサージによるサポートをする機会が増えて来たが、活動を継続して行う必要を強く感じる。

5 その他

平成 27 年 10 月にスポーツ庁が発足し、共生社会における障害者スポーツの取り組みがますます重要となっており筑波大学に期待が寄せられている。

「宇宙」を用いて地域の人々に笑顔を ～つくば市の病院、学校を中心に～

人間総合科学研究科看護科学専攻 高村 有加

1 事業の概要

本課題では、地域社会に暮らす人々を対象に、「宇宙」を通じて、科学振興ではなく、「やすらぎ」「きづき」「つながり」を提供する活動を行う。病院内で望遠鏡を用いた観望会を実施したり、星空を天井に投影したりすることで、参加者がリラックスできる時間を提供する。同時に星や宇宙の不思議や楽しさを体験し、それを共有することによって、患者、家族、医療従事者の間に、新たなコミュニケーションが生まれる空間を提供する。また、地域の子どもたちに対しては小中学校や児童養護施設などにおいて、宇宙を通して豊かな心を育めるような「宇宙授業」の教材を芸術系と協力して開発・実践する。

2 事業成果の概要、地方自治体との連携

① 7月23日 筑波大学附属病院にて患者さんや家族、職員の方々を対象とした七夕星祭りを開催した。内容は宇宙観測ソフトを用いた宇宙のお話、プラネタリウム上映、月観測、ワークショップ、ボディペイント等多数のコンテンツを実施した。来場者数は50人ほどで多くの方に「楽しかった」「また来年もやってほしい」という感想が寄せられた。



② 10月26日 筑波大学附属病院にてお月見観望会実施

参加者のべ30名に望遠鏡を使って月を見て頂き、さらに月にまつわるお話をを行った。入院患者さんやご家族には癒しの時間を過ごして頂いた。

③ 2月9日～3日31日 筑波大学附属病院外来棟にて宇宙写真展を実施した。全国から公募した宇宙に関する写真を外来廊下に展示。患者さんや職員の方に癒しの時間を提供し、また天文ファンの方々に新しい活動のモデルケースとして提案する企画となった。



この他企業と協働で筑波大学附属病院にてプラネタリウムを実施したり、職員の方に観望会を開催したりと、宇宙や星空を通して多くの方に楽しんで頂けた。

3 今後の展望

宇宙や星空を通して患者さんや家族、医療従事者の方々に癒しの場と時間を提供することができた。今後は附属病院だけに留まらず、近隣の病院、介護施設等に活動の場を広げていきたい。また、今年度実施できなかった学校施設等においても宇宙授業等を行い、宇宙の面白さを実感できるような活動を行っていく。

地域高齢者を対象とした健康教室の開催

【活動地域：東京都文京区】

附属視覚特別支援学校 教諭 工藤 康弘 津野 弘美 高橋 博臣

1 事業の概要

文京区内に在住の高齢者の方を対象とした健康教室を開催した。高齢者の方が住み慣れた地域で自立して生活を送るための支援として、健康に関する情報や技術を習得するための機会を提供することが必要であると考えた。教室の内容は、①参加者のバイタルチェック②健康に関する講義③参加者の体力チェック④体操実技指導を実施した。また、教室の運営には、理学療法科教員を中心として、理学療法科在校生、卒業生等が参加した。



教員・在校生による体力チェックの様子



卒業生による体操実技指導の様子

2 事業成果の概要

【第1回健康教室】

平成27年5月30日（土）9時～12時

参加者7名

【第2回健康教室】

平成27年10月17日（土）9時～12時

参加者9名

【第3回健康教室】

平成27年12月22日（土）9時～12時

参加者10名



在校生によるバイタルチェックの様子



教員による栄養講義の様子

3 地方自治体との連携

健康教室の開催案内を文京区の区報“ぶんきょう”に掲載した。広く周知が行われ、問い合わせも多数あった。

4 今後の展望

受講者のアンケート結果からも、教室の継続した開催が望ましい。専門的な知識や技術の習得や個別指導等を求める声も多く、高齢者の方の健康に関する関心度の高さを再認識した。また、在校生の参加は、高齢者の方とのコミュニケーション技術や身体評価技術等の資質向上を目指すための教育としても貴重である。以下に受講者のアンケートの一部を紹介する。

「もう少し多くの人に知って貰いたい」「高齢者にも理解できた」「生活に取り入れたい」「参考資料があって分かり易い」「体操指導を更に詳しく教わりたい」

5 その他（課題）

課題としては、健康教室を運営していくための経費や時間の捻出があげられる。また、安全面の管理体制を整備することや、大学との連携により、より専門的な内容も提供できるものと考えられる。

高齢者運動支援リーダーによる健康づくりネットワークの醸成と普及体制の構築 ～特に男性高齢者の健康づくり推進および異世代間交流強化の観点から～

【活動地域：茨城県つくば市および周辺地域】

体育系 准教授 大藏 倫博

1 事業の概要

本プロジェクトは、昨年度より実施している高齢者運動支援リーダー（以下、リーダーとする）をコアスタッフに据えた健康づくりネットワークの醸成を基に、社会参加が乏しいとされる男性高齢者の健康づくりや運動を通じた異世代間交流の促進を目的とした。目的の達成に向けて、リーダー養成およびスキルアップ研修は継続し、加えて、男性限定の運動教室の実施および男性限定の運動サークルの設立、各地区の高齢者のみならず子どもまで含めた異世代間交流の促進を目指した取組みとして、ニュースポーツであるMATTOSS（マツトス）を活用した競技会を開催した。

2 事業成果の概要、地方自治体との連携

①男性限定運動教室の開催（写真1）

茨城県笠間市において、男性限定の運動教室を開催した。本教室の目的は、男性高齢者の社会参加促進および健康増進である。本教室の主な内容は、ダンベル体操、スクエアステップ、MATTOSS、健康講話であった。参加者は18名となった。「周りが男性だけだと、共通の話題が多いので会話がはずむ」といった声もあり、参加者同士の交流が促されていたことがうかがえた。



写真1 男性限定教室（ストレッチの様子）

②男性限定の運動サークルの設立

茨城県笠間市において、男性限定の運動サークルを設立した。男性限定運動教室（上記①）の修了者のうち運動を継続したい者がサークルに移行した。サークルの運動内容はダンベル体操とスクエアステップ、MATTOSSである。サークル化した後4ヵ月間は、我々の介入を継続したが、徐々に参加者主体の運動

サークルになった。現在も、彼ら自身で活動が続いている。

③老若男女問わず交流することを目指した取組み ・MATTOSS 大競技会

本イベントは茨城県つくば市において開催され、つくば市、土浦市、牛久市、常総市、坂東市、つくばみらい市、下妻市などで活動するリーダーや彼ら／彼女らの運動指導を受ける高齢者およびその孫など約40名が参加した。当日は、MATTOSS 競技を予選、準決勝、決勝にわたっておこない、上位3名を表彰した（写真2）。



写真2 MATTOSS 競技会（決勝戦）の様子

3 今後の展望

これまで養成したリーダー数には男女の割合に差があり、男性高齢者リーダーは少数であったが、男性限定の運動教室や運動サークルの開催により、男性高齢者リーダーを養成することができた。今後も、男性高齢者に特化した取組みを継続・普及していくことは、男性高齢者の健康増進やリーダーによる健康づくり運動ネットワークのさらなる醸成と拡大に有効であることが示唆された。また、スクエアステップのみならずMATTOSSを取り入れたことで、競技会の開催など、新たなニーズを生み出し、より幅広い年代を通じた社会交流が可能となった。今後も、老若男女問わず、運動を通じた社会交流、健康増進を目指す予定である。

科学的根拠に基づく母乳育児支援専門職の養成

【活動地域：茨城県つくば市】

医学医療系 講師 安部加奈子

1 事業の概要

お母さんと赤ちゃんに接する機会の多い茨城県内の小児・周産期医療、保健福祉医療従事者に対して、科学的根拠に基づいた母乳育児支援に関する最新の情報と臨床技能を提供し、協力し合うための勉強会を開催した。この勉強会は、一定水準以上の技術・知識・心構えを持つ専門家として国際的に認められている国際認定ラクテーション・コンサルタント（IBCLC）資格取得に必要な単位認定を担保する内容で実施した。

2 事業成果の概要

平成27年度には、第11回および第12回つくば母乳育児支援勉強会を筑波大学医学エリアで開催した。

第11回つくば母乳育児支援勉強会

【基礎編】3. 5L-CERPs

- 1) 産科施設での母乳育児支援：
10カ条の理論と実践およびその臨床応用
講師：瀬尾智子
- 2) 母乳で育つ赤ちゃんへの補足の適応
講師：瀬尾智子
- 3) 産科施設での母乳育児支援の実践
講師：佐々木萌・安部加奈子

第12回つくば母乳育児支援勉強会

【アドバンス編】3L-CERPs

- 1) 妊娠と乳癌
講師：坂東裕子
- 2) 新生児期の黄疸と母乳育児支援
講師：安部加奈子
- 3) 産科病棟退院後の母乳育児支援の実践
講師：佐々木萌・安部加奈子

職種	延べ人数（人）
助産師	49
看護師	18
保健師	4
IBCLC	13
産婦人科医師	9
小児科医師	2
その他	1
合計	96

3 今後の展望

今後も定期的に母乳育児支援勉強会を開催しCERPs単位を提供することで、茨城県内のIBCLCや母乳育児支援のスキルをもつ保健医療従事者を増やしていき、地域のお母さんと赤ちゃんの母乳育児を支援していきたい。



第11回勉強会 グループディスカッションの様子

地元在住の運動指導ボランティアの自立を支援する社会貢献プロジェクト

【活動地域：茨城県大子町】

体育系 教授 田中喜代次

1 事業の概要

我々は平成23年より、茨城県大子町において地元在住の運動指導ボランティアの育成を基盤とした住民主導の要介護化予防支援体系の構築を支援してきた。今年度は、地元在住の運動指導ボランティアを対象とした研修会、および住民全体の健康への意識向上のために「大子町健康まつりー健康マルシェ」を開催したので、以下に報告する。

2 事業成果の概要

1. 運動指導ボランティアを対象とした研修会

運動指導ボランティアとして活躍している46名（だいで健康アドバイザー、シルバーリハビリ体操指導士、スポーツ指導員など）を対象に、研修会を開催した。活動に関する知識的・技術的支援方法の提供、および活動の長期化に伴う健康教室のマンネリ化や負担増の問題と解決ノウハウの共有、活動目的の再構築が目的である。

知識面では、筑波大学体育系教授 田中喜代次による講演「認知症予防で健康幸福」をおこない、認知症予防に対する基礎的理解を深めた。技術面では「認知機能向上のための運動と指導法」を実際の活動に直結できるよう、グループワークを交え提供した。

【参加者の感想】

- デュアルタスクは簡単そうに見えたが、難しかった
- 指導法が分かりやすく参考になった
- 情報交換ができ、活動に生かせそう



実技：「認知機能向上のための運動と指導法」の様子

2. 大子町健康まつりー健康マルシェー

運動ボランティアのみならず、住民全体の健康への意識向上を企図し、「大子町健康まつりー健康マルシェー」を開催した。主催は大子町であり、我々はサポート役であった。（参加者：294名）



「大子町健康まつりー健康マルシェー」ちらし

健康まつりのプログラムには、運動ボランティアのメンバーらによる「脳トレ」の提供も含まれており、新たな技術と共に、運動ボランティアの活動の広がりを見せていた。

3 地方自治体との連携

定期的に研修会や講演会、イベントなどを大子町と協働でおこなっている。今後も継続し、よりよい健康支援に向けた取り組みを展開していく予定である。

4 今後の展望

次年度は、より活動を促進させるために、運動ボランティア養成講習会（第3期）を検討している。さらに、より充実した健康イベントも計画中である。

茨城県内の救急隊員に対する小児・周産期医療教育

【活動地域：茨城県つくば市、水戸市】

医学医療系 講師 宮園 弥生

1 事業の概要

茨城県における人口10万人あたりの小児科医師数、産婦人科医数は全国で最下位であり、助産師・看護師数も全国平均よりはるかに少ない現状にある。乏しい人的資源の中、茨城県の小児・周産期医療は全国でも高いレベルを維持してきたが、相次ぐ分娩医療機関の閉鎖等で、自宅のすぐそばでお産をすることすら困難な状況になりつつあり、病院前救急の最前線を担う救急隊が小児・周産期医療に果たす役割はますます重要となってくる。茨城県内の救急救命士へのアンケート調査でも、この分野に関する教育を望む声が多く聞かれている一方で、その機会は乏しい現実にある。

そこで筑波大学附属病院の総合周産期母子医療センタースタッフ（新生児専門医、助産師）、茨城県立こども病院新生児科医師、水戸済生会病院助産師、小児救急医療の経験豊富な小児科医師、救命救急医らが協力して、救急隊対象の分娩対応講習会と新生児蘇生法講習会、小児救急勉強会を企画した。



自宅分娩を想定した新生児蘇生実習

2 小児救急勉強会（平成28年1月6日）

会場：筑波大学附属病院、受講者：23名

前半は動画も交えた講義、後半はグループでのディスカッション形式として、若手小児科医がファシリテータとして参加し、①小児の気道・呼吸・循環・意識の評価、②小児救急患者の初期対応、③特殊疾患への初期対応のテーマで活発な意見交換が行われた。

2 事業成果の概要

1 新生児蘇生法講習会Bコース（国際標準法に準拠）

および分娩対応講習会

①第1回（平成27年5月30日）

会場：茨城県立こども病院、受講者：24名

②第2回（平成27年11月21日）

会場：筑波大学附属病院、受講者：16名

平成27年度の成果として、1. 救急要請から始まり、より実践に即した新生児蘇生用シナリオを使用したこと、2. 講習会前の事前学習として、出生直後の新生児における注意事項などの基礎知識をまとめたスライドを作成したこと、3. トイレ内での分娩（模型を使用）や車中でのストレッチャー上での分娩事例に対応できるようにセットしたことなどがあげられる。事後アンケートではほぼ全員が内容に満足という結果が得られた。



グループに分かれてディスカッション

3 地方自治体との連携

茨城県内全域から受講者が参加し、消防署の公務として参加した救急隊員もあり、医療と救急現場の連携は着実に進みつつある。

4 今後の展望

マンパワーの問題もあり、1回の受講者数には限りがあるが、今後も地道な活動で人材育成に努めたい。

医療職および一般市民に対する新国際標準蘇生（ガイドライン 2010）教育体制強化の支援

【活動地域：茨城県つくば市】

医学医療系 准教授 高橋 伸二

1 概要

筑波大学社会貢献プロジェクトのもと、NPO 法人茨城 ACLS 協会（茨城 TS）を支援し、医療職、一般市民に対する蘇生講習会を展開してきた。国際標準である蘇生ガイドラインを基に作成された BLS・ACLS 実技コースを茨城県各地で開催した。2015 年度の茨城 TS での受講者数は 1503 人であった。例年 5 月に行っている看護師対象の蘇生講習会は今年度も県内から多くの看護師が参加した。社会貢献プロジェクトでは、筑波大学から人的派遣と研修場所の提供を行った。

2 実施内容及び成果

筑波大学社会貢献プロジェクトの支援により、県内の医療従事者の受講機会が増加し、心肺蘇生に高度な知識と技術をもった医療人を確実に増やし、地域医療に貢献している。関係各所から筑波大学の支援に対し高い評価を受けることができた。

茨城県は首都圏にありながら、まだまだ医師数が少ないという問題点を抱えている。県医療対策課では多くの若い医師を獲得するために初期研修医に対して蘇生講習会の受講補助を行っている。本プロジェクトはこの蘇生講習会の開催を支援し、年間一次救命処置講習会 31 回、二次救命処置講習会 11 回開催した。

共同で活動している AHA 茨城トレーニングサイトでの受講者数も高い水準で推移している。

（コース受講者の年次推移）

コース名	2013	2014	2015
HS-AED	196	261	196
BLS（一次救命処置）	839	709	635
ACLS（二次救命処置）	213	191	176
ACLS-EP（上級者）	35	31	41
PALS	47	19	28
その他	65	322	427
合計	1393	1533	1503

また、上級者の蘇生コース 7 回、小児蘇生コース基礎 12 回、上級 5 回、初期対応コース 12 回に協力した。

さらに、2015 年度は筑波大学で、筑波大学医学群学生と高校生を対象とした一次救命コースを開催した。

3 地方自治体等との連携

平成 27 年度も各団体と連携しコースを開催した。

- 1) 茨城県庁医療対策課：茨城県内の初期臨床研修医・後期臨床研修医・救急指導医を対象に実施した。
- 2) 茨城県庁消防防災課・茨城県立消防学校：茨城県内の救急救命士向けの ACLS、救急隊員・消防職員向けの BLS、初任科生に対して AED コース 6 回を実施した。
- 3) 茨城県医師会：医師会会員向けのコースを 3 回開催した。
- 4) 茨城県看護協会：恒例となったナイチンゲールプロジェクトは、県の各地から多くの看護師が参加し、蘇生教育を受けるとともに病院を超えた交流の場を提供した。
- 5) 茨城県内地域メディカルコントロール協議会：茨城県内の救急医療協議会と連携し、地域密着型で開催した。
- 6) 一般市民普及活動：県内の婦人消防団員（防火クラブ）対象に講習会を行った。

4 今後の展望

本プロジェクトによる研修会指導者・修了者が茨城県の救急医療を担い、そのネットワークは県の救急医療を支えている。継続した活動と更なる講習会の開催を企画していく。

今年度はさらに、医療資源が乏しい茨城県の西部（筑西地区）、東部（神栖鹿島地区）での活動に力を入れていく計画である。

好評であった医学生、高校生を対象とした一次救命コースも開催する予定である。

時間効率・空間効率を高めて学校体育を支援する「2分間 SPARTS 体操」

【活動地域：東北被災地、全国】

体育系 教授 征矢 英昭

1 事業の背景

2011年3月の東日本大震災以降、被災地の小学校では、校庭が仮設住宅設置で使えなくなり、バス通学で徒歩による移動が減少するなど、空間も時間も運動環境が劣化し、児童の体力低下が顕在化しています。2016年3月で5年が経過しても仮設住宅が撤去された学校はまだ1例もありません。

全国的に見ても、ゲーム、ネット、塾などの影響で児童の運動時間は減少傾向にあり、2015年から学校統合によるバス通学で、徒歩が減少、現在すでに8教科で満杯と言われる小学校授業に、2020年から英語、プログラミングが必修化され、体育の増加は絶望的となる、など児童の運動環境が時間・空間とも低下する見通しとなっています（図1）。

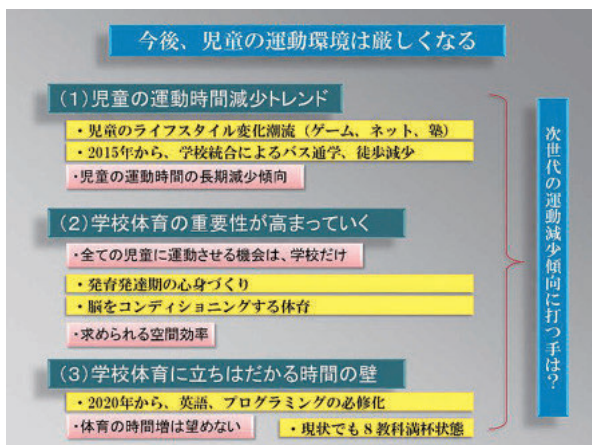


図1 児童の運動環境の展望

学校体育は「全ての児童に運動を与えられる機会」として重要性が高まっていて、「全児童の心身向上」のために「運動の時間と空間の壁」を越える工夫が求められています。この難しい現実の課題に、「2分間 SPARTS 体操」による支援を行ってきました（図2）。



図2 学校体育は「時間・空間の壁」を越える工夫が求められる

2 2分間 SPARTS 体操開発

運動（sports）と音楽（arts）を緊密に組み合わせることによって、時間効率、空間効率を高めながら、身体機能と脳機能（気分、意欲、認知機能など）を一層高めることができます。運動の時間・空間が制限された学校体育のために、時間及び空間の効率を高め、心身向上効果の高い「2分間 SPARTS プログラム」を開発し、学習指導要領を妨げない現実的な支援を実現してきました（図3）。

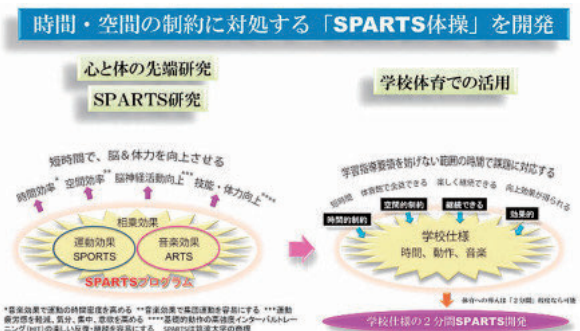


図3 SPARTS 体操開発

3 2分間 SPARTS 体操の大きな効果

(1) 特定機能強化モデル

2分間で心身の特定機能を強化する各種モデルを開発しました。「ジャンプ力」の向上をめざす「ジャンプ体操」（図4）、「敏捷性」の向上をめざす「きびきび体操」、「上体起こし」の向上をめざす「ラッコ体操」（図5）、「持久力」の向上をめざす「スタミナ体操」（図6）、全校児童を一斉に2分間で元気にする教室での「朝のスクワット体操」（図7）等々を開発。多くの学校で、対照教室と比較しながら、大きな効果、介入の有意性、再現性を確認してきました。



図4 2分間ジャンプ体操（仙台市立K小学校）



図5 2分間ラッコ体操（陸前高田市立Y小学校）



図6 2分間スタミナ体操（智頭町立小中学校）



図7 2分間朝のスクワット体操（大船渡市、仙台市）

(2) 多機能強化モデル

4年間の各プログラムの実績を踏まえて、更に「利便性」を高めた「2分間 SPARTS 体操第一」を開発しました（2015年）。①持久力、跳躍力、敏捷性、認知機能など心身の多機能が向上、②低学年から高学年まで全学年で楽しくできる、③全国の普通の学校でも向上する、を目標としました。高崎市や仙台の小中学校で実施し、持久力をはじめ、複数機能の有意な向上が確認されました（図8）。



図8 2分間 SPARTS 体操第一（高崎市N小学校）

現在、「全校で長期継続しやすい導入方法」と「継続効果」について検証を行っています。「2分間 SPARTS 体操 第一、第二、第三」を、授業間に全校でほぼ1年、長期継続が容易か、また多機能効果がみられるか、三重県菟野町の特徴の似た2校（紹介校、対象校）で検証を行っています（図9）。



図9 2分間 SPARTS 体操介入前の認知機能測定

4 地方自治体との連携、海外支援

東北被災地では、陸前高田市教育委員会と連携し、2分間 SPARTS 体操を市内小中学校教諭に紹介する講習会を2012年から3年継続しています（図10）。

また、地球的課題解決視点から、開発ラッシュで遊び場が減少し、運動不足、肥満が顕在化するモンゴル首都ウランバートル市内の小中学校に SPARTS 体操支援を視野に、体力測定を実施しました（図11）。



図10 陸前高田市内小中学校講習会3年継続



図11 モンゴル国立第32小学校の体力測定

5 今後の展望

東北被災地学校支援として始まった各種の「2分間 SPARTS 体操」支援は、個別に協議し提供した学校だけでも、12市町、27校にのぼります。近年は全国から要望が寄せられるようになり、学校、PTA、団体、企業、教育委員会、国など、多様な連携を行った全国的普及と、地球的課題解決をめざしています（図12）。

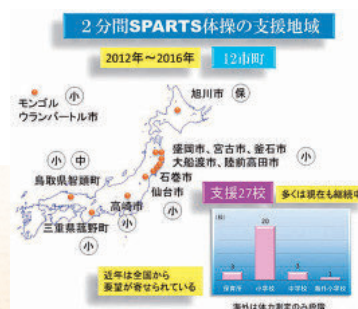


図12 2分間 SPARTS 体操の普及実績

つくば市と北茨城市における健康づくり運動による交流活動の支援

【活動地域：茨城県つくば市・北茨城市】

体育系 教授 長谷川聖修

1 事業の概要

現在、原発事故の影響で福島県より500名を超える避難者がつくば市に在住している。中でも、双葉町などの帰還困難者は、新たなコミュニティの中で、つくば市民とともに健康な暮らしを望んでいる。また、北茨城市は、震災から4年が経過し、健康づくり支援が途絶えつつある。そこで、つくば市では、昨年度より立ち上げた「うつく（ば+ふく）しま」体操クラブを継続し、さらに、北茨城市では、健康づくり支援課と協力して「健康体操教室」を立ち上げ、年間通じて継続的に開催し、復興支援の一助とする。

2 事業成果の概要

○「うつくしま体操クラブ」（筑波大学中央体育館体操場）：原則として、祝日を除く毎週月曜日、午前10時～11時。参加者数は、40名～50名程度。そのうち、10～15名程度が福島県からの避難住民。年齢は、65歳から86歳。



○「健康体操教室」（北茨城市大津コミュニティーセンター）：原則として、月1回（土曜日）午前10時～11時半、参加者数は、40名程度。年齢は、65歳から99歳。



○地域イベントへの主体的参加とつくば市民との交流

2016年2月6日に開催された「つくば体操フェスティバル」に参加し、「双葉音頭」を多くのつくば市民とともに大きな輪になって一緒に踊った。このことで、つくば市と福島県双葉町の文化が混じり合い、和やかな雰囲気の中で笑顔の輪が広がった。



3 地方自治体との連携

つくば体操フェスティバルは、つくば市体育協会の共催で開催し、広報関係で大きな支援を得た。北茨城市での健康体操教室は、健康づくり支援課の協力により保健師が参加した。

4 今後の展望

身体活動を通じて交流を図ることは、同時に、参加者の心の垣根を取り払う機会へと繋がった。長期化する震災の現状から見ると、避難者が生きがいのある日常的な暮らしを取り戻すことができるように継続的な取り組みが重要であると実感する。

今後の課題として、体操を通じた交流の場を起点として、福島県や北茨城市との文化的な交流活動へと発展させていきたい。互いの文化を学び合いながら、直面する問題の共有や将来への希望を探る場として機能出来ればと願っている。また、同時に、参加者が運営する自立した組織として育成するための方策も検討しなければならない。

復興作業およびスポーツ振興を通じた被災地での支援活動

【活動地域：福島県いわき市】

体育系 助教 奈良 隆章

1 事業の概要

平成 27 年 12 月 23 日に福島県いわき市で、いわき市立平第三中学校野球部員(合計 26 名の参加者)を対象に野球教室を行った。平第三中学校に本学硬式野球部関係者を派遣し、野球の技術指導を行った。

2 事業成果の概要

野球教室は9時から15時まで行った。はじめに対面式を行い、本プロジェクトの趣旨説明や当日の活動内容について説明した。

午前中は守備に関する技術指導を行った。キャッチボールを実施する中で、捕り方と投げ方の基礎を確認した。その後、ポジションごとに分かれて、より専門的な動きの指導を行った。その後、中学生および顧問の先生から依頼を受け、大学生によるシートノックを披露した。中学生はスピード感あふれる大学生のプレーを目の当たりにし、目指すべきプレーのレベルを実感することができたであろう。昼休憩の後には打撃練習を行った。限られたスペースであったものの、質と量の両面において充実した技術指導を行うことができた。

本プロジェクトで実施している野球教室では、言葉によるアプローチだけではなく、積極的に見本を示しながら視覚的にアプローチすることも重視している。今回の教室においても、多くの場面で大学生と共に汗を流し、プレーはもちろんのこと取り組む姿勢を学んでもらえたことだろう。この点については中学生、顧問の先生方からも高く評価していただいた。

当日は参加者 26 名に対して 13 名のスタッフで指導を行うことができたため、コミュニケーションも活発であった。また、互いに近い距離でやり取りをすることができたことにより、個別性にも配慮した指導ができた。



野球教室の様子



参加者との記念写真

3 地方自治体との連携

本プロジェクトは、いわき市職員である國井辰也氏(本学卒業生)と連携をとりながら実施した。平第三中学校への企画説明や会場予約等について國井氏にはご尽力いただいた。

4 今後の展望

本プロジェクトは東日本大震災で特に大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県で野球教室を行い、地域の活性化を目指してきた。これらの活動は継続することが何よりも重要であり、今後は過去に野球教室を行った地域で再び活動を行う予定である。これまで以上に地方自治体との連携を図り、より充実した活動を行っていきたい。

社会貢献プロジェクト「東北3県柔道指導キャラバン」

【活動地域：宮城県登米市・福島県南相馬市】

体育系 准教授 増地 克之

1 事業の概要

本事業は東日本大震災によって被災した岩手県、宮城県、福島県を対象に地域活力の復興・発展を目的に平成25年度より行われており、今回で4回目の実施となる。

平成27年12月19日(土)15時より、「登米市総合体育館」(登米市寺池目子待井10)において、地元の子ども達を対象とした柔道指導を行った。本学からは講師として増地克之(体育系准教授、柔道部監督)、小野卓志(体育系特任助教、柔道部コーチ)、平岡拓晃(スポーツ医学専攻1年、了徳寺学園職員)、秋本啓之(平成22年度修了、了徳寺学園職員)、川戸湧也(体育学専攻2年)、近藤俊(同左)の合計6名が派遣された。増地准教授が指導及び全体の進行を司り、内容は①挨拶、②準備運動、③各選手の得意技紹介とその練習、④元立ち乱取(2分×10本)、⑤講話であった。18時00分に整列・礼を行い、柔道指導を終了した。練習の前後、ケガや体調不良を訴えた子どもはいなかった。

練習後には記念撮影が行われ、そのまま同会場において指導者、保護者ならびに子ども達を交えて懇親会が行われ、19時00分に第1日目の全てのプログラムが終了した。

翌12月20日(日)13時00分より「南相馬市スポーツセンター」(南相馬市原町桜井町2-200)にて原町柔道スポーツ少年団の子ども達を対象とした柔道指導を行った。第2日目の会場となった「南相馬市スポーツセンター」には震災発生の翌年(2012年)に本学柔道部から畳の寄付が行われるなど以前から交流が行われてきた。今回は念願であった現地での柔道指導がようやく実現する形となった。本学からの参加者は前日と同様である。柔道指導の内容は、①挨拶、②準備運動、③増地准教授による寝技についての技術指導と寝技乱取(2分×5本)、④各選手の得意技紹介とその練習、④立技乱取(2分×10本)、⑥意見交換会であった。16時00分に整列・礼を行い、練習を終了した。前日同様、練習の前後、ケガや体調不良を訴えた子どもはいなかった。

2 事業成果の概要

本事業は地元の子ども達を対象とした柔道指導であり、第1日目の登米市総合体育館では43名、第2日目の南相馬市スポーツセンターでは25名の子ども達

が参加した。

本事業はこれまで3回実施してきているが、会場の規模とスケジュールの都合上、例年よりも参加者はやや少ない印象であった。その分、子ども達の技能レベルに応じた指導が可能であった。

子ども達に対する指導内容に関して、本学柔道部出身の選手による得意技について施技する際のポイントについて説明を行った。その後全体で技の練習を行った。その際、講師陣が巡回しながら子ども達の習熟度合いに応じて個別的指導を実施した。さらに希望する子どもは選手の前で技を披露し、上達のポイントについて講師陣から直接手ほどきを受けることが出来た。

指導者に対する柔道指導法に関する情報提供について、第1日目では講師が自身の得意技を紹介する際に指導する際のポイントについて合わせて説明をしていた。第2日目においても同様に指導する際のポイントを解説した。さらに加えて柔道指導後に意見交換会が設けられ、指導者の抱える指導上の課題や疑問について講師陣が回答するという時間が設けられた。

3 地方自治体との連携

今回の事業では南相馬市長である櫻井勝延氏より歓迎の言葉を頂戴した(代読)。上述のように、「南相馬市スポーツセンター」とは以前から交流があり、今後も引き続き交流を続けていくことを約束した。

4 今後の展望

上述の通り、本事業は今回で4回目の実施である。これまで延べ500名ほどの少年柔道家ならびに指導者に対して柔道指導を実施してきた。次年度以降も筑波大学体育会柔道部に所属する教員、部員、さらには卒業生が中心となり、先の東日本大震災で被災した東北3県(岩手・宮城・福島)の拠点となる柔道場・スポーツ少年団などを巡回し、被災地域における子どもを対象とした柔道教室を継続的に開催していきたい。合わせて被災地域の柔道指導を担うであろう指導者に対する柔道指導法に関する講習を通して、少年柔道の指導における要点について丁寧に指導・伝授するとともに現場の指導者が抱える課題や困難の解決に向けた取り組みを継続していきたい。

参考資料：指導場面の様子



平岡拓晃氏による背負投の指導



小野卓志特任助教による直接指導



講師陣による寝技の指導



登米市総合体育館にて



南相馬市スポーツセンターにて

私たちの故郷を描こう ―貼り絵で表現する故郷の文化と誇り― (東日本大震災で被災した地域の子供たちの心のケアと郷土愛や誇りを取り戻すための支援)

【活動地域：岩手県上閉伊郡大槌町、岩手県大船渡市赤崎町】

附属聴覚特別支援学校 主幹教諭 橋本 時浩

1 事業の概要

東日本大震災で被災した岩手県の小学校の児童に対して絵画指導を行った。まちの文化や産業に関係することがらを題材に絵画作品を制作した。また、「手話」についての授業を実施し筑波大学の進めるインクルーシブ教育推進のための活動も行った。

2 事業成果の概要

(1) 大槌町立大槌学園小学部の訪問について

平成27年8月20日に岩手県上閉伊郡大槌町の大槌町立大槌学園小学部を訪問し以下の事業を行った。

①貼り絵の絵画指導

第3学年の70名の児童に対し「考古園」、「虎舞い」を題材に貼り絵の指導を行った。

②「手話」についての授業

第4学年の60名の児童に対し「手話」の授業を行った。

③特別支援学級の訪問について

学校に設置されている特別支援学級を訪問し相談業務を行った。

(2) 大船渡市立赤崎小学校と蛸ノ浦小学校の訪問について

平成27年8月21日に岩手県大船渡市の赤崎小学校と蛸ノ浦小学校を訪問し以下の事業を行った。

①貼り絵の絵画指導

第3学年の25名の児童に対し「大船渡の海（ぼくたちわたしたちの海）」を題材に貼り絵の指導を行った。

②授業参観と相談業務

特別な支援を必要とする児童が在籍する学級を訪問し相談業務を行った。

(3) 訪問後の活動について

①児童が制作した作品は以下の3カ所で展示した。

- ・平成27年11月 本校の文化祭での展示
- ・平成27年11月 岩手県上閉伊郡大槌町での展示
- ・平成28年1月 千葉県市川市南図書館での展示

なお、市川市南図書館での展示では本事業に参加した本校専攻科造形芸術科の生徒がポスターを制作した。

②平成27年12月に制作した貼り絵作品を使ったクリアファイルを作成し、制作に関わった児童に配付した。

③平成28年3月に大槌学園、赤崎小学校、蛸ノ浦小学校の手話付き校歌(DVD)を作成し贈呈した。

④特別支援学級等に対しての相談業務についてはメールでのやりとりを事後も継続して行った。

3 地方自治体との連携

平成27年5月に打ち合わせのため本校教員1名が大槌町と大船渡市の学校を訪問し計画について説明を行った。各学校長から教育委員会に報告された。

4 今後の展望

震災後5年が経過し被災地の実態が語られることが少なくなっていると実感しているが、今後も被災地に寄り添い続ける活動は欠かせないものだと考える。訪問を絶やさず、常に多くの人間と結びついていることの意識を持ってもらうことは、被災地の子供や教員にとって何よりの励みとなると考えている。

5 その他

大槌町に暮らす聴覚障害者を訪ね震災時の状況や行動について聞き取り調査を行った。



大槌学園小学部第3学年の貼り絵の授業
(平成27年8月20日)

えきなんギャラリー展示

入場
無料

1月5日(火) — 1月28日(木)

開催期間中の休館日 1/12, 18, 25

会場：市川市市川駅南口図書館 <http://www.ekinan-lib.jp/>市川市市川南1丁目10番1号トリンクタウンいちかわ
ザタワーズウエスト3階
TEL 047-325-6241

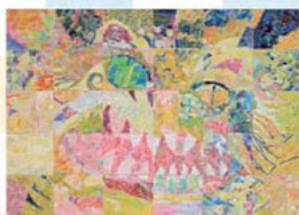
時間：火一金9:30 — 21:00

土日祝9:30 — 18:00

主催：市川駅南口図書館

協力：岩手県大槌町立 大槌学園小学部
大船渡市立 蛸ノ浦小学校
大船渡市立 赤崎小学校

ほうらい島 (ひょっこりひょうたん島)



虎舞い



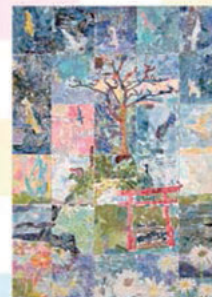
ぼくたち私たちの海

私たちの故郷を描こう

— 岩手県大槌町と大船渡市の児童絵画展 —



南部鼻曲り鮭



考古園

ポスターデザイン
筑波大学附属聴覚特別支援学校
専攻科造形芸術科 石井 美香

市川市市川駅南口図書館 指定管理者 株式会社ウィアックス

筑波大学 社会貢献プロジェクト 2015－16

発行月 平成 28 年 10 月
お問い合わせ 筑波大学総務部総務課
〒 305 - 8577
茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1
Tel 029 - 853 - 2052
E-mail ut.scpj@un.tsukuba.ac.jp
URL : <http://scpj.tsukuba.ac.jp/>
印刷 いばらき印刷株式会社





筑波大学

University of Tsukuba